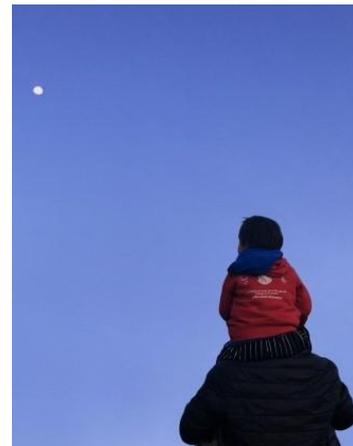


子育てに関する 行政制度及びNPO 法人サービスについて

## 第43回 ひとり親家庭の就業支援に積極的に取り組む企業

子育てと就業の両立が難しいなどの理由から、母子家庭の母や父子家庭の父の就業は困難な状況にあります。厚生労働省は、母子家庭や父子家庭の自立支援施策に取り組む上で、特に自立のため重要な就業支援において、平成18年度から積極的に就業支援に取り組んでいる企業・団体への表彰を実施しています。今回は、こうしたひとり親家庭の就業に配慮し受賞した企業の取り組みについて紹介します。就業支援の取り組みの一例として参考にしていただければ幸いです。

出典：厚生労働省HP: [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_10379.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10379.html)他



## 千代田タクシー株式会社

## 具体的な取り組み —静岡県静岡市/タクシー事業—

- 採用にあたっては、会社説明、勤務相談など、母子家庭等就業・自立支援センターと積極的に連携を図っています。
- 採用後は、家庭を第一に、自由度の高い勤務態勢に努めています。
- 社員には、ひとり親家庭であることによる時間的制約に対する社内理解の向上を図っています。

## ひとり親の雇用状況

全従業員に占めるひとり親の割合	7.3%
全従業員に占める正社員であるひとり親の割合	5.6%
ひとり親家庭の親の平均勤続年数	9年4か月

## 企業からのメッセージ

当社は、社員の困ったことや不安に思うことがあったら、いつでも相談しあえるアットホームな空気ができている会社です。快適な職場を作ることさまざまな方に働いてもらえたらと思っています。

## ひとり親家庭の就業支援に積極的に取り組む企業の表彰基準(一部抜粋)

- ひとり親家庭の親の就業促進について理解があること
  - ・「母子家庭の母、父子家庭の父の就業促進に係る考え方」を踏まえて判断する。
- ひとり親家庭の親が継続的に就業可能となっているなど、職場環境が良好であること
  - ・「母子家庭の母、父子家庭の父の就業を促進するための取組」及び「母子家庭の母、父子家庭の父が仕事と家庭を両立して働き続けやすくなるような積極的な取組」を踏まえて判断する。
- ひとり親家庭の親を相当数雇用していること
  - ・全従業員数が100人以上の企業等にあつては次のア及びイを、全従業員数が99人以下の企業等にあつては次のウ及びエを満たすこと
  - 【全従業員数が100人以上の企業等の場合】
  - ア 全従業員のうち、ひとり親家庭の親の割合が6%以上であること
  - イ 全従業員のうち、正社員(短時間正社員を含む。)として雇用しているひとり親家庭の親の割合が5%以上であること
  - 【全従業員数が99人以下の企業等の場合】
  - ウ ひとり親家庭の親を5人以上雇用していること
  - エ 正社員(短時間正社員を含む。)として雇用しているひとり親家庭の親が4人以上であること
  - ・次のア又はイを満たすこと
  - ア ひとり親家庭の親の平均勤続年数が5年以上であること
  - イ ひとり親家庭の親の平均勤続年数が3年以上であつて、ひとり親家庭の親のすべてを正社員(短時間正社員を含む。)として雇用していること



## 株式会社ヨシケイ埼玉

### — 埼玉県所沢市/夕食材料等の配達事業 —

#### 具体的な取り組み

- 多くの女性が活躍しており、母子家庭の社員も多数頑張っています。
- ひとり親家庭であっても何の心配もなく働けるよう、会社ぐるみで「子育て支援」をしています。
- ①社員から「本音の困りごと」を聞き取り、常に職場環境の改善を重ねています。
- ②子供を家で待たせない為に「定時退社の促進」。家族での楽しい時間の為に「有給休暇の取得推奨」。
- ③「完全週休二日制」。「残業ありません」。
- ④ママの元気を守る健康サポート。「婦人科検診実施や人間ドックの補助」。
- ⑤子供が病気でも休める「バックアップ体制」

#### ひとり親の雇用状況

全従業員に占めるひとり親の割合	18.7%
全従業員に占める正社員であるひとり親の割合	18.3%
ひとり親家庭の親の平均勤続年数	6年8ヶ月



#### 企業からのメッセージ

働くママは「仕事と子育て」で同じような苦勞をしてきました。だからこそ分かり合えます。何の心配もなく仕事に専念できる、時代に合った環境を作り続けていきます。



## 有限会社ライフケア

### — 熊本県玉名市/福祉・介護サービス事業等 —

#### 具体的な取り組み

- 勤務シフト作成時には、子どもの学校行事など最優先で休暇ができるように常に「お互い様の精神」をもって取り組んでいます。保育園で預かれなるときなどは、職場へ同伴しての就業も認めています。もちろん会社行事(社員旅行・懇親会等)へも同伴参加ができます。
- 「介護職員初任者研修課程」の認可を受けているので、勤務しながら資格取得ができます。キャリアアップの為の上位資格取得への研修等参加についてもバックアップ体制を整え応援しています。
- 時間単位有給休暇取得制度や関連企業の配食サービスの利用、学習補習塾の運営など職場以外でのサポート体制も充実しています。

#### ひとり親の雇用状況

全従業員に占めるひとり親の割合	10.9%
全従業員に占める正社員であるひとり親の割合	10.9%
ひとり親家庭の親の平均勤続年数	5年5ヶ月

#### 企業からのメッセージ

「ライフケアで働くスタッフが生き活きと働けるように」と、今まで実施してきた取り組みが評価された喜びと共に、頑張っているスタッフに感謝です。今後は弊社のみならず地域のサポートにも取り組み、応援の輪が広がるようにスタッフ全員で頑張っています。

## Support for Woman Doctors

～私からあなたへ～

渡邊 ありさ 先生【埼玉県 24 期】  
勤務先 医療法人社団 赤碕診療所  
お子さん 15 歳、11 歳、9 歳の 3 人



2 年間の留学中に出場したマラソン大会のメダルです。家族 5 人で 55 個もらいました。

学生時代は水泳部に所属し、6 年生まで BBS をしていました。

卒後 2 年目の冬に 25 期の卒業生と結婚しました。1 年半の別居を経てからお互いの県で義務年限を過ごし、夫が鳥取大学の外科に入局すると同時に、私も鳥取大学の地域医療学講座に就職し、そこで 4 年間お世話になりました。その後、夫の海外留学に伴い渡米し、私も子どもが学校に通う時間は同じラボで基礎研究を学ばせていただきました。帰国してからは消化器内視鏡と内科を中心に非常勤を 4 つ掛けもつ形で勤務を続けています。

皆さんは医師としてどんなキャリアを積みたいか、私生活をどうしたいかなどのビジョンはありますか？私は正直、あまり深く考えていませんでした。私の前にもたくさんの先輩たちがいて、皆さん何とかやっておられるのだから私も何とかできるだろう、と思っていました。

でも実際に働き始め、妊娠し子どもが生まれると、自分の思い通りにならないことが増えてきます。子ども関連の行事や業務が増えればあらかじめ手を回し時間を作り、子どもが急に病気になったら仕事を誰かにお願いして休むか、病児保育や看病を頼める人を確保する必要があります。自分一人のときよりも、格段に頭を下げる機会が増えました。状況が変われば、それに応じて自分の働き方や暮らし方、考え方をも変える必要があります。

私の場合、どうしても変えなくなかったのは、「仕事、特に内視鏡を続けること」で、それ以外は何とでもなるかなと思いました。

幸い私たち自治医大の卒業生は 1-2 年くらいの短期派遣を繰り返す、へき地ではそこにある限られた人員や資材で何とか対応することに慣れているためか、環境の変化にしなやかに対応することが得意で、その状況を楽しめる人が多いようです。

臨床指向だった私が大学で働きかけは、第 3 子が生まれた直後に夫が外科に入局し、自分が病棟や当直業務をバリバリこなすのは難しいけれど、へき地医療の経験を生かした教育がメインの仕事なら比較的時間がコントロールできると思ったからでした。そこで多くの学生と出会えたこと、全国で同じように地域医療教育に携わる自治医大の同窓生と再会し、情報共有ができたことは大きな財産となりました。以前は興味がなかった学会認定医や専門医資格は、卒後 10 年目を過ぎて大学に所属してから必要性を感じて取得しました。基礎研究や海外留学など考えたこともありませんでしたが、夫について 2 年間アメリカで暮らす間に専業主婦だけをしていたらもったいない、せっかくのチャンスだから英語も基礎研究も学びたいと思い、労働許可を取得してラボに通いピペットを握りレビューをまとめたりしました。走るのが苦手で、でも運動がしくて水泳部で泳いでいた私が、アメリカのお祭り騒ぎのようなマラソン大会に惹かれて走り始め、ハーフマラソンを 4 本完走しました。数年前の私にはとても考えられなかったことばかりでしたが、どれもやってみて良かったと思っています。

思いどおりにいかないとき、当初の予定を変更せざるを得なくなったとき、突然大きな変化が訪れたとき、その「予想外」をチャンスととらえて楽しんでみると、「予想外」の自分が見つかるかもしれません。「何で私がこんなことを・・・」と思うのも、「ラッキー、面白そうだからやってみようかな」と思うのも自由ですが、楽しめた方がいいですよ。

医師になって 20 年、定年まであと約 20 年。医師人生の半分を歩んできてしまったのかと時の速さに驚きます。いろいろな経験をしてそろそろ腰を落ち着けるころを決めたいと思っていた矢先に、降って湧いたような「予想外」のお話をいただきました。さて、どう決断しましょうか・・・。

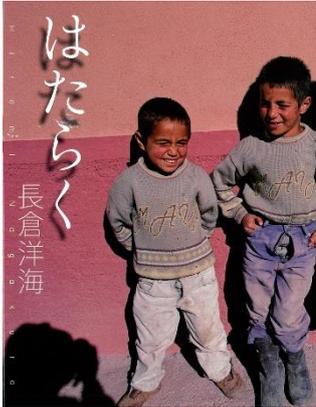
### 後輩へのメッセージ:

「何事も楽しんだ者勝ちです。予想外の事態を味方につけてしましましょう。」

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。  
連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係  
E-mail: chisui@jichi.ac.jp

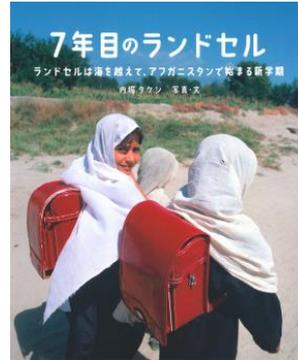
# 絵本の森

今回紹介する絵本は、写真絵本。そこには知らない世界が、想像もしなかった現実が広がっているかもしれません。わからないこともあるでしょう。写真を見ながら、子どもたちの疑問に、大人として答え、親としてその気持ちに寄り添う、子どもの中の世界が広がるきっかけとなるかもしれない、そんな本です。



**はたらく**  
文・写真：長倉 洋海  
出版社：アリス館  
発行日：2017年10月  
小学校中学年～  
定価：1,400円(本体価格)

「山の上で羊を育て、放牧する少年。両親のかわりに市場ではたらく少女。森の恵み、海の恵みで生きる人々。作者の長倉洋海さんが世界各地で出会った子どもたちの姿は、家族や仲間と助け合い誇りを持っています。明るさ、生きる力に溢れていて、深く心に残ります。



**7年目のランドセル**  
ランドセルは海を越えて、アフガニスタンで始まる新学期  
文・写真：内堀 タケシ  
出版社：国土社  
発行日：2020年6月  
小学校低学年～  
定価：2,000円(本体価格)

日本国内で6年間の役目を終えたランドセルは海を越えて、政情不安定なアフガニスタンの子どもたちへ贈られました。写真家の内堀タケシさんが、「ランドセルは海を越えて」の活動を通して、アフガニスタンの国内の状況や子どもたちの生き生きとした表情を伝える写真絵本です。

## ストレスケア

.....

### 写真を撮る

外に出る、行動することは、気分の良いものです。これまで当たり前すぎて気づけなかったことを、今ほど実感する時はないかもしれません。近くの公園に足を運ぶだけでも少し気持ちが上に向きます。まして、葉が色づき、実のなり、日々自然が変化を見せる時期です。カメラやスマホを持って外を歩き、写真を撮ってみるのはいかがでしょうか。

テーマを決めて、家族それぞれが写真を撮り、家に帰ってから、各々の「この1枚」にタイトルをつけて見せ合う。子どもたちが自分の目で何を捉えているのか、そこに驚きや成長を感じることもあるかもしれませんね。

壁にコーナーを作り、ハガキ大にプリントした写真を飾ることで家族の会話も増えていくと思います。写真を撮ることで、見慣れた風景の中に宝物が見つかるかもしれません。

